



目議第1332号  
平成27年11月11日

様

目黒区議会議長  
田島 けんじ

### 質問通告について

平成27年11月20日開会の第4回目黒区議会定例会における質問通告が下記のとおりありましたので通知します。

### 記

#### 一 般 質 問

質問者氏名 いその 弘 三

目安時間 50分

#### 1 2020オリンピック・パラリンピックに向けての目黒の取り組みについて

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、また、昨今の円安なども含め、日本への観光者は上半期過去最高のおよそ913万と言われ、今後目黒にも外国人観光客が今まで以上に増えると思われる。

(1) 目黒区の魅力とは何か、その見解と取り組み状況についてお伺いする。

(2) 東京都や特別区と連携し、観光に関連した芸術文化分野での展開についてお伺いする。

(3) 外国人観光客に対しての目黒区の対応についてお伺いする。

#### 2 保育園に関して

(1) 昨今、目黒区では保育園の整備を積極的に進めてきている。一方で区民との摩擦によって設置がうまく進められないなどの状況も起きている。解決策についてお伺いする。

(2) 保育士への処遇改善策が実施されるが、保育士を充足させられる方向性に向かっているのか伺います。

(3) 申請要件・保育指数・調整指数について伺います。

### 3 自転車駐輪場に関して

目黒の自転車駐輪場は平置き方式・サイクルラック方式平置き及び二段式タイプ・自動地下式・地上式駐輪場などいくつかの方式をとっていますが、昨今の「子供乗せ自転車」の駐輪対応について伺います。

質問者氏名 佐藤 ゆたか

目安時間 35分

### 1 目黒区のバリアフリー拡充について

(1) 昨年、都市環境委員会で視察した堺市は、バリアのないまち「自由都市・堺」を目標にユニバーサルデザインによる分かりやすい案内表示、誰もが移動しやすく目的を果たせる街づくりとして、堺市はまず初めに職員にユニバーサルデザインやバリアフリーへの理解を深めるため市役所本庁舎から取り組み、市街地へと推進しております。

目黒区も障がい者の方が移動しやすく、初めて訪れた方でも分かりやすい総合庁舎や街となるようユニバーサルデザインによるバリアフリー拡充が必要と思い、以下質問いたします。

ア 区総合庁舎受付からエレベーター前や各課の窓口やトイレまで視覚障がい者の方が移動できる点字ブロックを設置できないか伺います。

#### 【点字ブロック等 パネル使用】

イ エレベーター前にあるフロア案内板の色を濃紺にし、文字を大きく白抜きコントラストで見やすくエレベーター前の左右の壁に設置できないか伺います。

#### 【フロア案内板 パネル使用】

ウ 3カ所ある総合庁舎入口を色で表し、壁や床に色で表示し入口が分かりやすくなる誘導サインを設置できないか伺います。

#### 【誘導サイン パネル使用】

- (2) 以前、区長は心のバリアフリー化を進めるため、区民に歩道上の置き看板や点字ブロックへの駐輪が高齢者・障がい者の通行の妨げになることを理解させ、啓発に取り組んでいくとの答弁でした。しかし2年近くたちますが、駐輪や置き看板が未だ見られ、取り組みの効果が出ているのか感じられません。行政の指導があっても一時しか効果がなく改善されているように思われません。撤去などのハード面の取り組みだけでなく、私は心のバリアフリーのソフト面、高齢者・障がい者の立場に立ち、思いやりの心を一人でも多くの人に広げていく取り組みを積極的に進めるべきと考えますが、目黒区の見解を伺います。
- (3) 目黒駅周辺地区整備方針の中に、権之助坂歩道橋の撤去後にお休みスペースの確保を位置づけるとありましたが、先日のまちづくり懇談会では、お休みスペースの確保が計画されていないと聞きました。歩道橋撤去後は横断歩道の移動や新設により通行の流れが変わるため、植栽帯のスペースにベンチを設置すると歩行者の滞留がおき、通行の妨げになるので厳しいと聞いております。厳しいのは分かりますが高齢者の方の中には権之助坂を上るのに疲れて横断歩道を渡りきれない人、また横断歩道まで行くのが大変で坂の途中を横切る人が出てくるのが予見されます。交通安全の面からも権之助坂の途中や信号が変わるまでの間に、寄りかかり休める、少し休めるスペースの設置を検討できないか伺います。

## 2 傾聴ボランティア育成について

川崎市には平成21年から傾聴ボランティアが活動しており介護施設や老人ホーム、個人宅を訪問しての傾聴活動をおこなっております。この傾聴ボランティアは高齢者の話し相手として温かい心で耳を傾け聴く、相手の話を受け止め、話し手がさらに多くのことを話せるように聴く、聴くことにより孤独感や不安を軽くし安心感を与えております。

目黒区でも社会福祉協議会で傾聴の研修を年3回入門コースを行っており、聴き方のコツを学び、会話が穏やかになる聴き方を研修しており、昨年度は64名の方が修了しております。これから迎える高齢社会、孤独感や不安感を抱えたひとり暮らしの高齢者の方がますます増えることを考えますと、傾聴ボランティアの育成が大変重要である。また傾聴のスキルも上げていくべきと考えますが、目黒区の見解を伺います。

質問者氏名 岩崎 ふみひろ

目安時間 65分

1 来春に待機児を出さないよう、保育園増設に最大限の努力を

今年4月は認可保育園に入園できない子どもが1,000人以上にのぼったことを見ても、来春に向けて待機児を解消させることは急務である。しかし、来春の認可保育園開園に向けて6園の整備計画を進めているが、2園しか見込みが立っていない、ゆゆしき事態になっている。そこで以下質問する。

(1) 認可保育園整備が予定より大幅に遅れている現状について、区長としてどう打開しようとしているのか伺う。

(2) 区有地および施設を積極的に活用し、緊急的に保育園整備を

世田谷区や大田区、品川区など近隣区が積極的な保育園整備を行っていることと比べても、区の取り組みは遅れている。来年4月に間に合うように、区有地・施設を活用して整備計画を進めるべきだが、いかがか。

(3) 区立保育園の廃園計画は中止せよ

この保育園不足の状況の下で、区立保育園を廃止することは区の責任放棄である。何よりも、「公立保育園は質が保たれ安定感がある」と多くの保護者が期待している。また、民間の保育事業者の参入が難航している中、民間任せではもはや待機児解消はできない。区立保育園の廃園計画は中止すべきだが、どうか。

2 災害時の高齢者および障がい者等要配慮者対策の強化を

地震、洪水、噴火など日本は「災害多発時代」を迎えたといわれている中で、いっそうの防災・減災対策の強化が求められている。阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年8カ月がたったもと、さまざまな角度から復興の在り方が検証されているが、改めて高齢者、障がい者はじめ要配慮者の避難活動をどう進めるかなど対策の必要性がクローズアップされている。いっそうテンポを上げた対策が必要であり、以下質問する。

(1) 福祉避難所は必要な対象者数に見合う施設の指定と準備を進めよ

現在、介護施設や障がい者施設、区立保育園など20カ所設置されているが、これで充足されているとはいえない。厚生労働省が示して

いる「福祉避難所設置・運営に関するガイドライン」に基づき、早急に必要な整備を行うべきだと考えるが、伺う。

(2) 避難所への避難誘導體制を確立するために区が責任を果たすべきだ

区は「自助」を前提にした「要援護者向け防災行動マニュアル」を作り、「避難行動要支援者名簿」を作成して、町会や防災組織に安否確認や避難誘導等に役立たせようとしているが、実効ある体制をつくれるかどうかは未知数である。したがって、地域防災計画で位置づけている「支援チーム」の構成員である区職員や包括支援センター職員、介護・福祉事業者職員等を交えた定期的な避難誘導訓練を行いながら、区主導で避難誘導體制の整備を進めていくべきだと思うが、いかがか。

(3) 要配慮者支援チームの強化のため、区直営の地域包括支援センター設置を

「支援チーム」の中に地域包括支援センターの職員も含まれているが、要配慮者対策における役割強化のためにも、区直営の地域包括支援センターを設置すべきだが、いかがか。

(4) 民間の病院、福祉施設、保育園など要配慮者が日常利用する施設の耐震化の状況を区が把握し、施設の防災対策をサポートせよ

民間の福祉施設、保育園など要配慮者が利用する施設の耐震化の状況を区が把握するとともに、実際は施設にとって手に余る、受け入れ施設の医療・看護や介護要員の応援派遣、必要物資の備蓄などについて、行政側が支援する体制をつくるべきだと思うが、伺う。

(5) 感震ブレーカーの設置を普及するために、助成制度の創設を

要配慮者にとって、大地震時の火災予防には、揺れを感知して自動的にスイッチが切れる「感震ブレーカー」で電化製品などの発火を防ぐことがとりわけ必要である。要配慮者に普及を促進するためにも、感震ブレーカーの設置助成制度をつくるべきだと考えるが、いかがか。

3 働く者の待遇改善へとつなげる契約制度へいっそう発展を

(1) 自治体で広がり続ける公契約条例の制定を

最低賃金の保障など地方自治体としてできる雇用のルールづくりが求められる。目黒区自身が雇用を守り地域循環型の経済にしていくために、公契約条例の制定を早急に進めるべきだが、いかがか。

(2) 公共工事にかかわる建設労働者の保護強化を

ア 区の公共工事において、労働者に対し積算労務単価に基づく適正な賃金が支払われているかチェックするとともに、労災事故の防止、雇用通知書による雇用関係、労働条件の明示の徹底、週40時間労働、有給休暇取得の保障など、労働者保護対策を求める文書を作成し指導すべきだが、いかがか。

イ 公共工事で加入が義務付けられている建設業退職金共済制度について、必要書類の提出を予定価格2千万円未満の工事についても義務付けるとともに、実際に労働者の共済手帳に証紙が貼付されているか、区としてチェックすべきだと思うが、いかがか。

質問者氏名 吉野正人

目安時間 45分

- 1 区立学校のインターナショナルセーフスクール認証に向けた取り組みについての見解を伺います。
- 2 災害発生時等に中学生の頭部を保護するヘルメット等の導入についての見解を伺います。
- 3 区立学校においてアンガーマネジメントを導入することについての見解を伺います。
- 4 区立小学校の一部で導入している午前5時間制の成果と課題について伺います。
- 5 めぐる子ども見守りメールの保育園対応版導入についての見解を伺います。
- 6 本区上空を通過予定の羽田空港新飛行経路について現在の対応状況を伺います。

質問者氏名 小沢あい

目安時間 45分

- 1 目黒区の国際教育について  
現代社会のグローバル化が進む中で国際的なコミュニケーション能力の養成や多文化共生の意識向上は、未来に向けての人材育成にとっては

必要不可欠な要素だ。語学というものは単に意思疎通のための道具ではなく、その言葉を培ってきた文化とも密接に関係するものだ。その言語の元となる文化や歴史を適切に理解しなければ、その言語の習得もはかどるものではない。

区では、多文化共生のための政策、特に学校現場における施策はどのようなになっているのか。

## 2 目黒区の発達障害者支援について

発達障害者の支援や社会の理解は、まだ十分に進んでいない。目黒区の取り組みの実績、その成果と今後の課題はいかがか。

---